【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年7月11日(2023.7.11)

【公開番号】特開2022-34342(P2022-34342A)
【公開日】令和4年3月3日(2022.3.3)
【年通号数】公開公報(特許)2022-038
【出願番号】特願2020-138095(P2020-138095)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】令和5年7月3日(2023.7.3)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技状態として、特図の変動表示の時間を短縮させる時短状態が設けられた弾球遊技機であって、
始動口への入球に起因して当否判定を行う当否判定手段と、
前記当否判定の結果を報知するため、前記特図の変動表示を行う変動手段と、
前記当否判定での当選に起因して、複数のラウンドにわたって大入賞口を開放する大当り遊技を行う大当り遊技手段と、
前記変動表示にて予め定められた前記特図が表示されたことに起因して、予め定められた第１回数の前記当否判定が行われるまで継続する前記時短状態に移行する第１時短手段と、
前記大当り遊技を生じさせない前記当否判定が連続的に行われた回数である連続回数をカウントするカウント手段と、
前記連続回数が予め定められた上限回数に達すると、前記第１回数よりも多い第２回数の前記当否判定が行われるまで継続する前記時短状態に移行する第２時短手段と、
前記第１時短手段により移行した前記時短状態の継続中、該時短状態中に実行可能な前記当否判定の残り回数が第１開始回数以下になると、該残り回数を報知又は示唆するカウントダウン演出を行う演出手段と、を備え、
前記演出手段は、前記第２時短手段により移行した前記時短状態の継続中には、前記残り回数が前記第１開始回数以下になっても、前記カウントダウン演出を行わないこと、
を特徴とする弾球遊技機。
【請求項２】
請求項１に記載された弾球遊技機において、
前記演出手段は、遊技の進行に応じて予め定められた特定演出を行い、前記第１時短手段により移行した前記時短状態の継続中、前記残り回数が前記第１開始回数以下になる前と後とでは、前記特定演出が実行される確率が異なっており、前記第２時短手段により移行した前記時短状態の継続中は、前記残り回数が前記第１開始回数以下になる前と後とにおいて、前記特定演出が実行される確率が同じであること、
を特徴とする弾球遊技機。
【請求項３】

遊技状態として、特図の変動表示の時間を短縮させる時短状態が設けられた弾球遊技機であって、
始動口への入球に起因して当否判定を行う当否判定手段と、
前記当否判定の結果を報知するため、前記特図の変動表示を行う変動手段と、
前記当否判定での当選に起因して、複数のラウンドにわたって大入賞口を開放する大当り遊技を行う大当り遊技手段と、
前記変動表示にて予め定められた前記特図が表示されたことに起因して、予め定められた第１回数の前記当否判定が行われるまで継続する前記時短状態に移行する第１時短手段と、
前記大当り遊技を生じさせない前記当否判定が連続的に行われた回数である連続回数をカウントするカウント手段と、
前記連続回数が予め定められた上限回数に達すると、前記第１回数よりも多い第２回数の前記当否判定が行われるまで継続する前記時短状態に移行する第２時短手段と、
前記第１時短手段により移行した前記時短状態の継続中、該時短状態中に実行可能な前記当否判定の残り回数が第１開始回数以下になると、該残り回数を報知又は示唆する第１カウントダウン演出を行い、前記第２時短手段により移行した前記時短状態の継続中、該時短状態中の前記残り回数が、前記第１開始回数よりも小さい第２開始回数以下になると、該残り回数を報知又は示唆する第２カウントダウン演出を行う演出手段と、
を備えることを特徴とする弾球遊技機。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
上記構成によれば、第１時短状態中、カウントダウン演出の開始に応じて特定演出の出現率を変化させることができる。このため、カウントダウン演出が行われているか否かに応じて、弾球遊技機での演出のバランスを調整できる。一方、第２時短状態中には、残り回数が第１開始回数以下になった時にはカウントダウン演出が行われないため、この時に特定演出の出現率が変化すると、演出に違和感が生じる恐れがある。これに対し、上記構成によれば、第２時短状態中、残り回数が第１開始回数に達しても特定演出の出現率は変化しない。このため、演出に違和感が生じるのを抑制できる。
なお、請求項３に記載されているように、遊技状態として、特図の変動表示の時間を短縮させる時短状態が設けられた弾球遊技機であって、始動口への入球に起因して当否判定を行う当否判定手段と、当否判定の結果を報知するため、特図の変動表示を行う変動手段と、当否判定での当選に起因して、複数のラウンドにわたって大入賞口を開放する大当り遊技を行う大当り遊技手段と、変動表示にて予め定められた特図が表示されたことに起因して、予め定められた第１回数の当否判定が行われるまで継続する時短状態に移行する第１時短手段と、大当り遊技を生じさせない当否判定が連続的に行われた回数である連続回数をカウントするカウント手段と、連続回数が予め定められた上限回数に達すると、第１回数よりも多い第２回数の当否判定が行われるまで継続する時短状態に移行する第２時短手段と、第１時短手段により移行した時短状態の継続中、該時短状態中に実行可能な当否判定の残り回数が第１開始回数以下になると、該残り回数を報知又は示唆する第１カウントダウン演出を行い、第２時短手段により移行した時短状態の継続中、該時短状態中の残り回数が、第１開始回数よりも小さい第２開始回数以下になると 、該残り回数を報知又は示唆する第２カウントダウン演出を行う演出手段と、を備えるようにしてもよい。